

地震津波避難

高台の校庭 車での避難に

地区防災計画へ提案を



みやがわ のりみつ
宮川 徳光 議員

者、周辺地域住民、及び関係機関との事前に行動計画を作成し共有することが必要だ。

今後検討される、各避難所での運営マニュアル、錦野地区や入野本村地区の地区防災計画等の作成が行動計画になるのではと思っている。今後、それらの検討の段階で、このことについて、町からも提案をしていきたい。

問 町は、自力での津波避難が困難な方のために車での避難も検討しており、高台の駐車スペースが必要となっている。入野地区には、小・中・高の各学校が浸水区域外にあるので、これらの運動場を利用させて頂いてはどうか。

答 松本 情報防災課長

南海トラフ地震が発生した場合、これらのグラウンドの開放は、多くの命に直結する重要な課題だと認識している。そのためには、学校管理

中山間対策

集落活動センター

展望は

更に2カ所の開所を目指す

問 町内の集落活動センターの取り組み状況と、今後の展望を伺う。

答 武政 総務課長

町内には、2カ所の集落活

動センターがある。

平成25年3月に開所の集落活動センター北郷は、地域活性化対策として、菜の花祭りを始めとする様々なイベントを開催し、地域外との交流も図ってきた。補助事業を活用した施設整備も完了し、地域の人たちが安心して集える活動拠点もできている。

一方、収益事業では、地のものを生かしたもののづくりに取り組んできたが、現状、経済的自立には至っていない。

また、平成26年度に開所した集落活動センターこぶしは、推進母体が佐賀北部活性化協議会で、集落支援員1名を設置し、組織は食部会、若山楮部会、柚子部会の3部会で構成している。この内、食部会のさが谷三里マーケットは、月2回、第2、第4土曜日に土佐佐賀温泉こぶしの里の駐車場にて加工食品等の販売を行っている。

現在の課題は、食部会の販売店舗と若山楮部会の作業場の整備だと考えている。

今後の展望については、平



住民ボランティアとあったか職員の手による「ミニ屋台村」の一コマ（H27年12月16日、集落活動センター北郷）

成28年度に蜷川地区にて町内では3つ目となる集落活動センター「であいの里蜷川」の開所を予定している。

一方、蛸瀬川流域の馬荷、御坊畑、大方橋川の3集落で構成される「かきせ川地域づくり協議会」では、平成29年度の集落活動センターの開所を目指して、地域内でのワークショップやアンケート調査を実施している。

また、集落支援員の任期の3年間が過ぎた北郷については、地域において集落支援員は置かずに地域住民主体で活動が続けていくことになっている。そのため、補助金も町からは出しておらず、施設の維持管理費のみを出している。

【その他の質問】

※民生委員について